

# 千年の森便り N098

2011. 11. 24

ちば千年の森をつくる会

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~toyofusajima/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

## お知らせ

### 12月の活動日

日 時：12月4日(祝) 9時30分 県民の森「木のふるさと館」駐車場集合

活動内容：危険木処理（手鋸で伐採を行います。道具、服装、靴などに留意を。）

シダ調査（倉俣武男講師の指導を受け、シダに絞った調査を行います。） 同時実施

## 活動の記録

### 11月20日(日) 晴

参加者：伊藤道男、鶴沢和男、甲斐順子、苅米均、栗山忠俊、重岡謙作、福島成樹、松本ミドリ、真鍋昌義、村野忠夫、山口衛 会員11名

#### ○ ニホンジカ生息状況調査

今年度3回目のニホンジカ調査を行いました。結果は、若いオスジカ1頭を確認しました。調査は、いつものように橋の手前で調査要領を確認したあと、橋を渡り7コースに別れて10時に調査開始。

最初にシカを見たのは5コースの栗山さんで、広場近くを走り去る短い角のオスジカを発見、その後声も確認。次に、1コースの北岸を歩いていた福島が、禁断の岬方向へ走る短い角のオスジカを確認。さらに、2コースの村野さんが禁断の岬のヒメコマツ植栽地付近で角があるシカを確認、さらに、3コースの山口さんがスダジイ林を走るシカを確認しました。多くの調査者に目撃されたシカですが、時間と逃走方向を見るとこれらの目撃は同一個体であったと考えられます。(福島)

#### ○ クロヤツシロラン

巨木林シイタケホダ場の周辺に、咲き終わったクロヤツシロランが見つかりました。一昨年秋、当時6歳の中田智貴君がホテイ岬で見つけた後、所在不明となり、探し続けていましたが、2年ぶりに見つかりました。落葉に埋もれて地味に咲き、花を見るのは難しいとされていますが、来秋には是非花を見たいものです。クロヤツシロラン(ラン科オノノヤガラ属)は葉緑素が無く光合成できないため、キノコの菌糸から栄養をもらう、菌従属栄養植物の一種です。千葉県では要保護生物(C)に指定されています。(真鍋)

			
調査前に打ち合わせ	目を凝らす 1, 2 班	シカ目撃者 4 人	全員集合 11 名

#### ○ 危険木対応

枯れ木も島の一員でその観察も楽しみの一つですが、会員外の入島が多くなっているため危険点検が欠かせません。9月の台風、前日の強風などで危険な状態の枯れ木の確認を行い、巨木林周遊の歩道周辺で21本の枯れ木のうち9本は早急に処理する必要があると判断しました。12月に伐採処理する予定です。(伊藤)

## ○ 野鳥観察

カワセミ2 アカゲラ1 コゲラ声 ヒヨドリ2+声 シジュウカラ声 ヤマガラス声 エナガ3+声 メジロ声 アオジ声  
9種

シカの生息状況調査中に、頭上からケツ、ケツ、という強い声。島では中型のキツツキは記録されていないはずと思い、立ち止まって樹冠を見上げると大きな鳥の影。双眼鏡で確認すると、なんとアカゲラ(要保護生物(C))でした。背中白斑も確認できました。豊英島周辺ではめずらしいと思います。カワセミは、入り江周辺の水面近くを飛び回っていました。(福島)

17日の観察記録 トビ3+声 オシドリ1 ハシブトガラス声 ハシボソガラス声 4種(坂本文)

## ○新入会員

重岡謙作さん(木更津市畑沢在住) 巨木に興味あり


昨日は豊英島に関する由来や現状について、ご説明くださり有難うございます。

初めての里山活動でしたが、メンバーの和気あいあいの楽しい雰囲気ですムーズに参加できました。豊英島は平時は無人とすることもあって自然が色濃く残された貴重な森林であるとの印象を受けました。

まだ一部分だけしか見ておりませんが、枯れ木、枯れ枝、落木などの処理をして環境を整備してはどうかと感じました。しかし余り手入れが過ぎると自然を侵すことになる恐れもあるのか？

今後、活動を通して勉強したいと思います。(重岡謙作)

## ○秋の豊英島

		
ヤマウルシ(栗山)	リンドウ(栗山)	アズキナシ(栗山)
		
紅葉の豊英島 (坂本文: 2010)	同左 (福島)	同左



## 10月31日(月) 晴 臨時活動日 植物(シダ類) 調査

講師：日本シダ学会・倉俣武男先生、参加会員：新井通子、栗山、坂本文雄、真鍋

倉俣先生をお迎えし、豊英島初のシダ観察・調査を行いました。ホテイ岬方面や巨木林など平坦部にはシダ類少なく、斜面を中心に調査しました。吊橋下を降りた北側の湖面近くの水辺や絞り水滴る崖、禁断の岬北側急斜面、ヒカゲツツジ自生の崖や水辺の危険な急斜面はシダの宝庫でした。この日、ハカタシダなど新たに確認した15種を含め40種のシダを調査し、豊英島のシダ類累積種数は45種となりました。倉俣先生有難うございました。



シダの宝庫は北向きの崖



シダ観察は急斜面をよじ登り



博多織模様のハカタシダ 10.31 坂本(文)

この日はセンブリ、サラシナショウマ、イズノシマダイヤモンドソウなどの花に出あいました。3種とも「千年の森」活動開始後初の開花観察、サラシナショウマは9年ぶりの再会でした。また秋の観察会になかったウラボエホテイシメジなどキノコも多く、坂本さん手造りウスヒラタケの味噌汁を美味しく頂きました。(真鍋記)



センブリ 10.31 坂本(文)



サラシナショウマ 10.31 坂本(文)



イズノシマダイヤモンドソウ 11.4 福島

11月4日(金) 森林総合研究所のキノコ担当の方がバカマツタケの生育地を見たいということで、豊英島を案内しました。なんと、この時期に発生して間もないバカマツタケを複数確認しました。植物では、イズノシマダイヤモンドソウの開花を確認しました。(福島記)

### 豊英島のシダ調査を行って

倉俣武男

周囲 1.5kmほどの小島で、当然シダが好む沢などの流れもない環境の中、40種近いシダが確認できたのは驚きです。さすがに南側斜面や混交林の尾根筋は空中湿度に乏しくシダ的環境ではありませんが、北側左部分の断崖や急斜面は絞り水で水分の補給も足りているためか、シダの種類も多く、素晴らしいと思いました。図鑑通りの見事なハカタシダは感激ものです。

次回、湖岸を水面側から調査したら更なる新顔のシダが見つかるかも知れません。期待しましょう。シダに限らず、維管束植物の全般に及んでこれだけ充実した調査をなされているのですから、ここは是非証拠標本の作成をお勧めします。証拠標本を伴わない目録の訴求力は稀薄です。近年一部に標本採集を罪悪視する傾向がありますがこれは大なる誤解です。正しい採り方、作り方をしてデータの蓄積に努めようではありませんか。

